

大府市・あいち在来種保存会・至学館大学
「伝統野菜の採種・保存及び活用に関する連携協定」締結式

日時：令和8年2月17日（火）

定例記者会見終了後から

場所：大府市役所多目的ホール

次 第

1 開 式

2 出席者紹介

3 協定締結の趣旨説明

4 あいさつ

大府市

市長 岡 村 秀 人

あいち在来種保存会

代表世話人 高 木 幹 夫

至学館大学

学長 谷 岡 郁 子

5 協定締結（協定書署名）

6 質疑応答

7 閉 式

おおぶ発！ 「地域の伝統野菜を守り、次世代へつなぐ “たね”循環プロジェクト」

大府市、至学館大学、あいち在来種保存会は、このたび「地域の伝統野菜を守り、次世代へつなぐ たね循環推進プロジェクト」を共同で開始します。

国内の種子供給は海外依存が高く、有事や災害時には食料供給が不安定化する恐れが指摘されている。こうした課題を踏まえ、本市では、あいちの伝統野菜 37 品目のうち、市ゆかりの 3 品種（知多 3 号たまねぎ、木の山五寸にんじん、愛知縮緬かぼちゃ）について、採種・保存を体系的に進め、地域で食の基盤を維持できる体制づくりに取り組む必要があります。

また、生産者の高齢化や減少により、伝統野菜を育て採種できる人材の確保が難しくなっており、担い手育成と技術継承が急務となっています。

本プロジェクトでは、あいち在来種保存会の技術指導、至学館大学の学生による参画、市による保存・管理体制を組み合わせ、地域全体で伝統野菜の種子を守り循環させる仕組みを構築します。さらに、全世代を対象に、食文化や伝統野菜の意義を伝える教育の場を広げます。保育園や学校給食での活用も拡充し、子どもたちが“身近な食材としての伝統野菜”を体験的に学べる環境を強化します。世代を超えて価値を共有することで、伝統野菜を未来へつなぐ意識も高めます。

《知多 3 号たまねぎ》



《木の山五寸にんじん》



《愛知縮緬かぼちゃ》



■ 「地域の伝統野菜を守り、次世代へつなぐ“たね”循環プロジェクト」の概要

1. 目的・効果

- (1) 地域の伝統野菜 3 品種の採種・保存体制を確立し、食料供給の安定と地域農業の維持に寄与する。
- (2) 全世代を対象に、地域の食文化や伝統野菜の意義を伝える教育機会を提供する。すでに保育園や学校給食で伝統野菜が活用されており、これらの取組をさらに拡充することで、子どもたちが伝統野菜を身近な食材として学べる環境を強化する。
- (3) 三者連携を通じて地域内での種子循環モデルを確立し、生産農家を増やし、地域全体で伝統野菜を守り育てる雰囲気醸成する。

2.連携の役割分担

(1) 在来種の採種・保存体制の構築

1) あいち在来種保存会

- ① 採種に関する実践的技術指導（採種方法、乾燥・管理方法等）
- ② 圃場の管理及び採種作業の運営を協力する。

2) 至学館大学

- ① 受講生として圃場管理を含む採種活動に参加する。
- ② 実習を通じて、地域の食文化や伝統野菜の意義について学ぶ。
- ③ 若い世代へ、地域の食や食材の大切さを伝える役割を担う。
- ④ 地域の農業者・団体と交流し、伝統野菜の魅力を発信する活動にも参画する。

3) 大府市

- ① 種子の保存・管理体制を整備し、長期的な保全を図る。
- ② 関係機関、団体等と連携・調整を行い、事業運営の主体となる。
- ③ 保存した種子の地域内での活用を促進する。
- ④ 学校や地域団体と連携し、教育・啓発活動を推進する。
- ⑤ 種の保存とあわせて、生産者の育成支援や伝統野菜のブランド化を進め、地域農業の価値向上につなげる。
- ⑥ すでに取り組んでいる保育園や小中学校での伝統野菜を活用した給食提供を拡大し、子どもたちが伝統野菜に触れる機会を増やす。

3.取組内容

(1) 対象作物／愛知県の伝統野菜のうち大府市をゆかりとする伝統野菜3品種

(2) 活動場所／市内圃場

(3) 活動内容／伝統野菜の採種・保存体制を整備し、農家への種子提供や教育機会を通じて地域農業と食料供給の安定に貢献し、将来的には種子循環モデルを地域全体に広げることを目指す。

(4) 活動開始／令和8年度より順次実施

【問い合わせ先】

大府市農業振興課

担当：佐藤正裕（サトウ マサヒロ）

電話：0562-45-6225 FAX：0562-47-9996 メール：noshin@city.obu.lg.jp